

「美の滋賀」発信懇話会提言の実現に向けて

県民参加で進める具体的な方法について

(これまでの懇話会の議論から)

- ・発信していく方法と目的は「アソシエーション(組合、座)」という概念。県民に、仏教美術、近代美術、アール・ブリュット、あるいは豊かな自然といった様々なアソシエーションのどれかに入ってもらって、互いに競うというのはどうか。
- ・最近のお母さん達は、子ども達の芸術に対する関心を育ててあげたいと思っている。こういうお母さん達に参加型でアドバイスをもらいながら何かできれば、大きな意味で次世代の育成につながるのではないか。
- ・地域の人々の生の声として、いろいろな人の意見がたくさん集積して、それが県全体の魅力になっているというやり方のほうが合っているのではないか。
- ・国民文化祭を県民参加で実施するなど、ムーブメントとしてメッセージを出した方がよい。

市町や民間団体等との協働について

(これまでの懇話会の議論から)

- ・市町や民間の美術館等と連携して、滋賀県全体でネットワークを構築して取り組んでいく必要があるのではないか。
- ・「文化で滋賀を元気に」をキャッチフレーズに、文化・経済フォーラム滋賀が取り組んでいる。「美の滋賀」もそのテーマの大きな一つになる。

取組を確実に進めるために必要な仕組みについて

(これまでの懇話会での議論から)

- ・行政の中心的な考え方に文化を大切にすることを据え、施策にも反映されるようにしていく。
- ・「美の滋賀」を推進する司令塔として官民挙げた組織をつくり、ネットワークで役割分担をして発信していく。例えば、パフォーミングアーツはびわ湖ホールを中心として各地の民俗芸能や祭礼とつながり、収蔵・展示作品は新生美術館を中心にしてとどのように滋賀県全体にネットワークを張る。
- ・懇話会提言をフォローする仕組みが必要である。